

その他の国々

- 1 オーストラリア 268
- 2 トルコ 269



1 オーストラリア

1.1 教育省が今後 30 年間の高等教育改革についての方針を公表 ―「オーストラリア大学間協定」

2024 年 2 月、教育省は今後 30 年間の高等教育政策の課題について、産業界や高等教育界からの意見を集約して政府に報告するレビューである「オーストラリア大学間協定」の最終報告書を公表した。そこでは、今後の社会経済的課題に対応する高度なスキルを持った専門人材が多数必要であるとし、労働年齢該当者の中等後教育修了率を 2023 年の 60% から 2050 年までに 80% とすることや、25 ～ 34 歳の高等教育修了率を 55% することなどの目標が示された。

高等教育システムの改革を継続させるため形成された「オーストラリア大学間協定」は、高等教育の現行の課題に対する審議委員の助言を教育相に提出するレビューである。2022 年 11 月に開始された審議では、2023 年 2 月に議論のたたき台となるディスカッション・ペーパーが公表され、人口構成やコミュニティ構成員の変化、AI 等の新技術への対応、公正な社会参加、安全保障、環境問題、産業構造の変化と人材育成といった、国が今後 30 年間に直面する課題が提出されるとともに、▽国内需要に見合った知識と技能の提供、▽高等教育と職業教育の連携強化、▽公正な教育機会の提供、▽国際交流教育の発展、などの方向性が示された。同年 7 月には中間報告書が公表され、今後の社会経済の発展にはハイレベル人材の増加が必要とされ、高等教育の量的拡大とともに、経営的レジリエンスの強化や、運営における基本的能力の向上の必要性などが指摘された。また、2050 年までに 25 ～ 34 歳の人口の 55% が高等教育を修了していることや、連邦政府支援金を受け取る定員数を 90 万人追加することなどの目標が示された。2024 年 2 月に提出された最終報告書の主な内容は、中間報告書を踏襲したものとなっており、大きな変化はない。

2024 年 2 月に公表された「オーストラリア大学間協定」の最終報告書で示された主な目標は、以下のとおりである。

- 2050 年までに全ての労働生産年齢該当者の中等後教育修了者の割合を現行の 60% から 80% に高めるとともに、25 ～ 34 歳までの高等教育修了者の割合を現行の 45% から 55% に高める^{〔注1〕}。
- 2050 年までに政府支援金を受ける学生の定員を現行の 86 万人から 180 万人に増加させる。
- スキル獲得を主眼とした先住民や社会経済的背景が困難な人々への高等教育の提供を拡充する。
- 職業教育と高等教育の高度な連携に基づく適切な学位・資格に結び付く教育を提供する。
- 奨学金等の学生支援の改善による学生を中心とした教育体制を構築する。
- 社会的課題解決型の研究体制を強化する。
- 改革実施のためのリーダーシップと管理・連携体制の改善や学生需要に基づいた予算配分を強化する。

〔注〕

1. 2022 年に制定されたオーストラリア職業技能法に基づいて内閣に労働市場の動向や今後必要とされる技能について提言する機関である「オーストラリア職業技能（Jobs and Skills Australia：JSA）」は、今後 10 年間で発生する仕事の 90% が中等後教育の資格が必要であるとし、そのうち 50% が学士学位以上、44% が職業技能資格を必要とすると報告している。また、経済コンサルタント会社である Oxford Economics

Australia は、2050 年までに 25 ～ 34 歳人口の 90% が第 3 段階教育を経ていることが必要と報告している。

【資料】

教育省ウェブサイト“Australian Universities Accord: Summary of the Final Report” 2024 年 2 月 23 日 (<https://www.education.gov.au/>)

2 トルコ

2025 年 THE 世界大学ランキングで 91 のトルコの大学が掲載され、そのうちトップ 1,000 に 12 大学がランクインした。2024 年の全国統一の高等教育入学者選抜試験において、電子機器を用いた入試不正が発生した。

2.1 2025 年 THE 世界大学ランキングのトップ 1,000 に 12 大学がランクイン

2024 年 10 月 9 日付の日刊紙『ヒュッリエト』は、2025 年 THE 世界大学ランキングで 91 のトルコの大学が掲載され、そのうちトップ 1,000 に 12 大学がランクインしたことを伝えた。国内のランキング掲載大学は昨年の 75 大学から 16 大学増加し、インドと共に大幅増となった。トップ 1,000 に入った大学は、コチ大学、中東工科大学、サバンジュ大学、イスタンブール工科大学、ビルケント大学、ボアズィチ大学等であり、上位 3 大学は 351 ～ 400 位に位置付いている。同紙は、研究環境、国際化、研究の質などの面で世界的平均を下回っているものの、50 以上の大学がランクインした国の中で研究の質と評価が 3 番目の早さで改善された国となり、今後数年間での発展が注目されるところとした。

【資料】

Hürriyet ウェブサイト “THE 2025’ te Türkiye rekoru: 91 Türk üniversitesi ‘en iyiler’ listesinde” 2024 年 10 月 9 日

2.2 2024 年の高等教育入学者選抜試験で電子機器を用いた不正が発生

2024 年 6 月 12 日、トルコで最も古くからある英語日刊紙の 1 つである『Daily News』は、6 月 8 日、9 日の両日に実施された全国統一の高等教育入学者選抜試験において、電子機器を用いた入試不正が発生したことを報道した。同事案は、試験会場のセキュリティを突破して通信電子機器等を持ち込んだ受験者によって起こされたが、不審な挙動をする受験者を発見した警察官によって阻止された。

高等教育入学者選抜は、査定・選抜・選定センター（Center for Assessment, Selection and Placement、トルコ語略：ÖSYM）が全国統一で毎年 6 月に行っている。選抜試験は「基礎学力テスト（TYT）」「分野別学力テスト（AYT）」及び高等教育段階で外国語を専門に学ぶ受験者のための「外国語テスト（YDT）」の 3 種から成り、TYT は全評価の 40%、AYT は 60% となっている。また、YDT は高等教育段階で専門的に特定の外国語を学習することを選択した受験者に対して必須とされている。2024 年は 6 月 8 日に TYT、9 日に AYT と YDT が行われ、同試験の結果は 6 月中旬に成績順に並べられた上でウェブ上に公表される。成績順位ごとに進学先が決定するため、同試験は受験者のその後のキャリアを左右するするとともに、実施者側は公平性・公正性を保つために厳格なセキュリティ体制がとられている。受験者はスマートフォンなどの電子機器の試験会場への持ち込みが

禁止されており、会場では監視カメラを用いて受験者をモニターし、不審な挙動を示した者に対しては後日、ÖSYM が問い合わせ等を行って不正の実施を防ぐ措置をしているため、正確な統計はないが、不正事例はほとんど発生していないとされており、今回の不正事案は注目を集めた。

『Daily News』が報道した 2024 年 6 月 8 日に発生した高等教育入学者選抜試験の不正の内容は、次のとおりである。

- M.E.E と称される受験者は、シャツのボタンにカメラを仕込み、電子機器を靴に隠して試験会場入り口の警察の検問をくぐり抜けた後に、トイレで電子機器を装備した。
- 試験会場では、M.E.E は試験問題を撮影し、外部にいた共謀の A.B. に送信し、A.B. は ChatGPT を用いて回答を生成し、M.E.E のヘッドセットにルーターを経由して答えを送信した。
- M.E.E. の不審な行動を見た警察官は、その行為を止めるとともに、クレジットカードに似せたルーターとボタンに似せたカメラ、及び携帯電話を没収した。また、M.E.E. と A.B. は逮捕された。

本件を受けて、ÖSYM 等は、金属探知機の配置強化や受験者確認の厳格化を検討している。また、ICT の専門家は、『Daily News』に対して試験会場の周辺でコンピュータや携帯電話を使用している個人や、試験会場付近に駐車している車両への監視の強化の必要性を述べている。

【資料】

Daily News, “Man Arrested for Cheating with AI in University Exam” , 2024 年 6 月 12 日